

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100768		
法人名	有限会社おおいし		
事業所名	グループホームくつろぎ(1階)		
所在地	釧路市愛国西2丁目7番10号		
自己評価作成日	平成24年12月3日	評価結果市町村受理日	平成25年3月6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigvosyoCd=0174100768-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方と共に生活をしているということを大事にして、炊事・洗濯・掃除・町内会とのつきあい等入居者と職員が共に行い、当たり前前の生活を心がけながら明るさと笑い声に溢れるホームを目指しております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ	
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内	
訪問調査日	平成25年1月25日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は住宅や会社が混在する場所で、付近に大型スーパー、公園、市老人センターがあり生活利便性に恵まれている。木造2階建て2ユニットのホームは、居間、食堂、台所が同じ空間にあり、日差しが入り明るく、加湿器や空気清浄器を設置し利用者の体調に気をつけている。地域との交流も積極的で、地域の行事に参加し、事業所の夏祭りには、大勢の地域住民等が参加して地域の楽しみになっており、また、中・高校生の体験学習、行政の新人研修や社会福祉協議会研修、就労支援受入に協力して相互交流している。終末ケアを経験して利用者と家族を支援し、職員もスキルアップができ自信に繋がっている。利用者個人の尊厳を守り、暮らしに対する意向を介護計画に盛り込み、計画に評価や変更を常に検討して利用者の支援を行うことで、利用者の安心・安全な生活につなげている。やりがいを感じてもらえるように利用者に出来る範囲で靴磨きやボイラー点検、洗濯物干し、胡麻すり、大根干しと沢庵漬を職員と一緒にし、利用者は能力を発揮して生き生きと暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I.理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑い声にあふれている毎日であり地域行事への参加やホーム行事に参加して頂く等している。	地域に密着した理念を掲げており、見やすい場所に掲示している。管理者と職員が常に確認し、理念を共有し日々実践につなげている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会していると共に近くのコンビニへの買い物も入居者と共に行っておりお店の人から「〇〇さんおはよう」と入居者が声をかけてもらうようになっている。	地域事業には積極的に参加している。春の音楽会、盆踊りなど事業所行事に地域住民の手伝いと参加がある。ボランティアが訪れて利用者を楽しませている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてホームの状況等を説明し、一般向けの研修や講演会があるときには案内を送付している。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議にて日頃の様子の報告や取り組み等報告して話しあっている。	包括支援センター・地域住民・家族が参加して2か月に1度開催している。運営に関わる状況の報告や利用者の近況報告を行い、意見交換を行なっている。会議日程の都合などで家族の参加が少なくなっている。	家族の参加を求めるために、家族が来訪する行事に併せて会議を開催したり、土・日や遅い時間帯に開いてみるなどの工夫を期待する。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは連絡をとりやすい関係にて日頃から相談をし指導を受けている。	管理者は市役所や包括支援センターと連携を図り、問題解決や事業所のサービス向上に繋がるよう取り組んでいる。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束防止委員会を開催しており身体拘束防止についての職員の意識の向上に繋がっている。	内部研修会の充実をはかり、身体拘束防止推進を含めて人権を尊重したケアの実践に向けた取り組みがなされている。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特別に虐待防止法の研修はしていないが、勉強会や外部研修に参加することで勉強すると共に毎月話し合いをして自分達のケアが虐待に繋がらないようにしている。					

グループホームくつろぎ(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全ての職員が学んでいるとは言えないがホーム長管理者は理解していて関係者等に伝えているが現在ホームには該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明しており、文書等でも提示している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先のホーム内から見えにくい場所に意見箱を設置しており、普段から家族とは話す機会を設けて意見を聞き反映させるよう努めている。	家族の訪問時に会話を心掛け、話しやすい雰囲気を作り、意見や要望を引き出せるように努めている。毎月担当者が利用者の状況や様子を記した便りを送付して情報を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や普段の会話の中でも意見を聞いて反映させている。	職員会議や朝のミーティングで、職員の意見を聞いている。意見が気軽に出せるように更衣室にホワイトボードを置いてここに書いてもらうようにした。意見には迅速に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の勤務のフォローや金銭面での援助、又代表者は年に一度金一封を出している。正職員への登用も検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはより多くの職員を参加させておりホーム内勉強会やヘルパー2級の研修や介護福祉士等の資格試研を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長がグループホーム協会の役員をしている関係で他グループホームとの交換研修や始まったばかりだが「井戸端会議」と称して介護職員同士の繋がりを深めてケアの質の向上を目指している。		

グループホームくつろぎ(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やケアマネジャーからの情報収集に努めると共に御本人と現場の介護職員がコミュニケーションを多く持っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や相談時には良く話を聞いており、いつでも話してくれるように雰囲気をつくっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には自ホーム入居にとらわれずに他サービスも念頭におき対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ゴミ出し、庭掃除、テーブル拭き、茶碗拭き、調理等お願いして手伝って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームからお願いして本人に話して頂いたり、必要な物を説明して用意して頂いたりして一緒に支えて頂く様お願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室や買い物、兄弟姉妹等との相互訪問もしている。	職員と一緒に兄弟の家を訪問したり、職員や家族と馴染みの理美容室に行ったりして馴染みの関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にお手伝いをしてもらったり、自室で過ごしている方へのお茶のお誘いや入浴の勧め等して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	催し物の案内を送付したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段からコミュニケーションでの把握に努めており御本人にとっての最良の対応が出来る様にしている。	日々の関わりの中で利用者の希望や意向の把握に務め、利用者の本人本位で考えて適切な対応が出来るように務めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネージャー等より情報の聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌やアセスメント等で把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には普段から意見を聞いており、ケア評価や現状等の話し合いを全員でしている。	担当制を取りながら、フロア会議でモニタリングをし、家族や利用者の希望を聴いて現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌や個人記録、及び申し送りノートにホワイトボード等利用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	被害妄想のある方の警察や帰宅願望の方の市役所、郵便局等一緒に出かけた。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのお店や理美容、風呂屋、飲食店等活用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけの病院を継続していると共に希望時には往診出来る病院への変更もしている。	かかりつけ医への通院は家族が行うが、要望があれば同行している。利用者の日常生活や症状を詳細に記録した書類を受診先に提出したり、家族から受診結果の報告を受けて情報を共有して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約先の訪問看護師とはより良い関係を持っており相談しやすい関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の面会や医療職、家族との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時説明させて頂く共に書面の提示もしている。	契約時に重要事項説明書と指針で重度化時の方針を説明している。重度化時には早い段階で管理者・職員は担当医・家族と話し合いを重ねて情報を共有しチームで支援に取り組んでいる。看取りの経験は職員の自信に繋がった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々のケアの中で指導していると共にマニュアル本用意や勉強会もしている。緊急の場合には、直ぐにホーム長に連絡つくようになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的にしており、勉強会でも様々な避難のシミュレーションをした。	避難訓練は年2回行なっている。内部研修で様々な事態を想定して避難のシミュレーションを行ない議論を重ねている。	運営推進会議を通じて避難訓練に地域住民の協力を得て、地域住民を交えた緊急時の協力体制を構築することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアの中でお互いが気をつけて注意しあったり、会議等で注意している。	個人の尊厳やプライバシーを損なわない言葉掛けや対応に心掛け、日々の業務と内部研修で確認を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関係性が特に良い職員が対応して希望を把握したりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や昼寝、洗濯、入浴等希望にそって対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好きな色や好きな衣類、寒さ対策等でも見栄え等に注意している。		

グループホームくつろぎ(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや後片付け時には味付けや調理そのものをして頂いたり、食堂の同席者や視界にはいらぬような工夫をしている	調理など出来ることは職員と一緒にしている。畑の収穫物が食卓に上がり、収穫した大根で漬物を作って、これらを話題にして楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に応じて摂取量チェックしており、詰め込みや喉つまり等考慮しなければならない利用者には小分け、手づかみの人にはおにぎり、水分にとろみをつけるなどしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立者には声かけし、介助者には食後のお茶や歯磨き介助、口腔清拭をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声かけやタイミングを見計らった誘導、オムツの吸収量の検討等している。	トイレ排泄を大切に、個々のトイレのパターンを把握して声かけや誘導を行っている。トレパンから紙パン、布パンに移行できるよう排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ牛乳やヨーグルトを提供、入浴時のマッサージ、歩行運動やあしこぎ運動等している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望で午前中の中の入浴、受診前の中入浴、順番決めジャンケン等して楽しみながら入浴して頂くようにしている。	時間に関係なく入浴ができるようにしている。入浴の人が重なるとジャンケンで先の人を決めたり、入浴剤の使用、好きな音楽を流したりして、楽しみながら入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の明るさの調整やトイレの声かけのタイミングを利用者に合わせてしている。自室に施設希望者には家族や本人と話し合い突っ張り棒使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表作成し使用するとともに薬依存のある方には自室に解りやすくした処方箋を貼っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	魚を捌く、味付け、ラーメンづくり、ゴミ出し、掃除、牛乳の買い物、食事の後片付け等日常お願いしている。		

グループホームくつろぎ(1階)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望、美容室希望、姉妹兄弟宅、地域の人からの演芸観覧のお誘い時、町内会の催し物等に出来る限り出かけている。	気分転換を図りストレス解消のため、散歩や買い物に行き、畑で作業をしたり、町内会行事等に参加するなどの外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者にはご家族の了解を得て数千円程度を所持して頂いている、買い物時に御本人にお金を持って頂き支払って頂いたりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用可能であり、取り次ぎもしている。贈り物への礼状や年賀状等の声かけして出している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度計、湿度計設置、トイレの使用中の札や入浴中の札、食席や居間の座布団等使用している。	明るい陽ざしがはいつている居間にはソファや椅子が配置されて自由にくつろげる居心地の良い空間になっている。壁には職員と一緒に作成した作品や行事の写真、季節を感じさせる飾り物が貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間の椅子の配置換えや畳や椅子等もところどころにおいてある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたもの、ベッドではなく布団使用、仏壇、冷蔵庫等設置、御本人希望により模様替え等している。	自宅で使用していたベッド・布団・仏壇・冷蔵庫・タンス・家族の写真などを馴染みの物を持ち込み、意心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室から食席までの動線の工夫、手すりの設置、夜間転倒の危険が高い人にはセンサー設置して対応している。		